

項目	5 しずおかバーチャルスクールの本格運用に向けた取組について
答弁者	教育長
質問要旨	<p>不登校児童生徒は増加しており、令和6年10月に文部科学省が公表した調査の結果では、小中学校の不登校児童生徒数が過去最高となった。</p> <p>なかでも、心配しているのは、どこにもつながっていない児童生徒が約4割と、依然として高い割合になっていることである。</p> <p>この状況が長く続けば、学業の遅れや進路選択上の不利益など、社会的自立への弊害が生じてしまうのではないか。</p> <p>このような中、県教育委員会では、どこにもつながっていない不登校児童生徒の新たな居場所、学びの場として、メタバースを活用した「しずおかバーチャルスクール」を設置することとし、今年度については、来年からの本格運用に向けた、バーチャルスクールの構築、試行を行うと聞いている。</p> <p>不登校児童生徒への支援におけるメタバースの可能性は大きいと考えている。6月の定例会における山本議員への教育長の答弁では、交流、体験、学習の場を設定していくとともに、これから他部局と連携し、企業の協力を得ながら教材の充実に努めていくことなどの回答があった。</p> <p>不登校児童生徒にとって、メタバース空間の特徴でもある、秘匿性の保たれた空間で学び、他者と交流することは、社会的自立に向けたきっかけになることが期待され、その運用にあたっては、独自のノウハウの構築を求められると思われる。</p> <p>また、周知や募集については、対象がどこにもつながっていない不登校児童生徒ということもあり、情報の伝え方に一層の工夫が必要とされる。</p> <p>その上で、「しずおかバーチャルスクール」について、来年度からの本格運用に向けて、どのような取組を行っていくのか伺う。</p>

<答弁内容>

しずおかバーチャルスクールの本格運用に向けた取組についてお答えいたします。

県教育委員会では、どこにもつながっていない不登校児童生徒の学びを保障し、社会とのつながりを確保できるきっかけとなるよう、令和7年度からの本格運用を目指して、「しずおかバーチャルスクール」の構築を進めております。市町教育委員会やフリースクール等からの意見、他県の取組などを参考に、効果的な運営方法等について検討しており、令和7年1月から試行を行ってまいります。

学校やフリースクール、ネットを活用した広報などを通じて、試行への参加者を募集した結果、定員の2倍を上回る350人以上の応募が寄せられました。秘匿性の保たれた新たな居場所、学びの場として、バーチャルスクールへの大きな期待が示されたものと認識しております。今後も教育関係機関にとどまらず、医療や福祉など、子供たちにつながる幅広い機関への情報発信の方法を検討してまいります。

本格運用に向けましては、子供たちが継続的にアクセスしたくなるような空間づく

りを進めてまいります。県内企業や文化施設等にも協力いただき、様々な分野の専門家にお話しいただく場を設けるなど、非日常的な体験ができる社会見学や体験活動を用意し、子供たちの興味を引きつけ、社会への関心を高めるコンテンツの充実を図ってまいります。

また、児童生徒が抱える悩みや不安を受け止めることができるよう、スクールカウンセラー等の配置を検討するほか、試行で出された意見や要望を取り入れ、安心して魅力ある学びの場の整備に努めてまいります。

県教育委員会といたしましては、「しずおかバーチャルスクール」に対する期待をしっかりと受け止め、本格運用に向けた準備を着実に進め、子供たちの社会的自立を支援してまいります。

以上であります。

項 目	5 しずおかバーチャルスクールの本格運用に向けた取組について【再質問】
答弁者	教育部長
質問要旨	試行への参加者を募集した結果、定員の2倍を上回る350人以上の応募が寄せられたことについて、今後、県ではどのように対応していくのか伺う。

<答弁内容>

しずおかバーチャルスクールの本格運用に向けた取組についての再質問にお答えします。

今回の試行では、定員150人の募集に対して、350人を越える応募があったわけですが、今後運用方法等を工夫し、応募のあった全ての児童生徒に、まずはバーチャルスクールを体験いただき、来年度の本格運用につなげてまいります。

また、依然としてどこにもつながっておらず、バーチャルスクールの情報がまだ届いていない児童生徒もいると考えられることから、引き続き、様々な方法を活用し、丁寧な広報に努めてまいります。